

金岡 俊信
向原町長田
ひとはは11年目
自治会きさら

「ひとは」との出会

発足当時から、創始者である寺尾夫妻とそこに
数人の主婦たち、仲間の親御さんたちの労苦も知っている。
その中でも、楽しかったことでは「神の倉ハイキング」で、
各地から多くの参加者で
祭りのようだった。

「ひとは」のこれから

「ひとは」の理念である
「地域とつながる思い」は貫いて欲しい。
「ひとは」も発足当時からすると大組織となった。
大組織では、「営み」は「経営」となり、「思い」は「現実対応」の奥に
押されてくるだろうが、「初心の幼さ」も大事にして欲しい。



水田 淳也
自治会きさら
ひとはは11年目
ひとはは11年目

私の中にあるひとはの記憶

私がひとはを知ったきっかけは、祖母の家に行く途中にある「ひとはの縄文あいす」
です。スタッフと一緒に丁寧に接客してくれた仲間の姿が印象に残っています。
当時、夫婦ではまったのが「甘くて濃厚なバナナ味」。
いつの間にかお店からなくなったけど、数年たった今でも「あれが今までのアイスで一番
好きかも」と話すくらいです。

明日のひとはへ

以前、保護者の方が「前は周り比べて出来る
出来ないを押し付けていたけど、今はこの子が楽しいと思える場所を
増やしたいと思うようになりました。」と言われ、ひとりひとりの目線に
合わせた支援の大切さを感じました。未来のひとはも、関わる人が
「自分っていいな」と思える場所であり続けてほしいと思います。



東家 悠子
坂井智子の姉
ひとはは11年目
自治会きさら

私の中にあるひとはの記憶

妹は20歳の時に共同ホームひとはは設立と同時に入所し、ひとは福祉会にて就労する事と
なりました。お煎餅やかき氷、縄文あいす作り、接客等、慣れず苦辛した様子を
覚えていて、今は自信を持って、製造販売を頑張っている姿を頼もしく思います。

明日のひとはへ

私は広島市内で小さい弁当屋を営んでいます。起業の際にはひとはの製品とお客をつなぎた
いと考えていました。食を通じて企業と福祉、お客様、皆が嬉しい社会となる様、小さな個人店でも
何かを伝える事は出来るはず。『地域と社会をつなぐ』ひとはの素晴らしい製品と、仲間の未来が、
これからも明るくあり続ける事を祈念申し上げます。

内藤 直樹
自治会きさら
ひとはは19年目
自治会きさら

結婚したい。僕のパンツは見ないで欲しい。
納豆ご飯が食べたい。
お母さんが死ぬの嫌だ。
尖戸さん、甘い飲んじゃいけんと言う。



仲増 一枝
ひとはは14年目
自治会きさら

私の中にあるひとはの記憶

通信教育も終わりに自宅に居た時、友達から「ひとは」を紹介されました。
最初は職員さんも10名位です。法人化に向け色々なイベントを展開。地域の人、ボランティアの
人達等を巻き込みながら、汗と知恵を出し資金調達をしていました。

明日のひとはへ

現在の「ひとは」は組織も人も大きく成長しました。仲間から言われた一言「しっかりせよ。
わしがついとるけん。」文尚さんはいつもこの言葉を話して下さい。仲間が発信している
一言一言を受け止め、その重みを感じとられる人間に成りたいと思っています。

兼近 洋子
ひとはは14年目
自治会きさら

障がいのある人がいて当たり前

35年前、寺尾さんが小さな民家を借りて始めようとしていた作業所に私も加わらせてもらう。
福祉の知識や経験もなく、不安だったが、「友達みたいな気持ちで付き合えばいいですよ」
と言った私に、「それで良い支援ができるのか」と言われ、衝撃を受けたことを覚えている。
あれから様々な事があったが、ここまで来られたのはやはり仲間の存在が大きい。
仕事に行き詰まりひどく落ち込んでいた時、白崎さん(無骨で頑固な人だと思っていた)の
さりげない思いやりで救われ、涙が止まらなかった。病気をした時、入院の前日まで仲間と
いつも通りの活動をする事で余計な事を考えず、落ち込むこともなかった。仲間とかかわる中で
助けられた事は数多い。世の中には、老若男女いろんな人がいる。
「障がいのある人がいて当たり前」とみんなが心から思えるような社会を目指すひとははあって欲しい。



貞近 幸夫
自治会きさら
ひとはは32年目
自治会きさら

兼近さん、住岡さんと陶芸をしていた。
1929年生まれで、丸岡さんのお父さんと
同い年。
種を植えたいと思っている。

編集 後記
つうしん
通信の読み返しから始まった記念号の作成。ひとは35年の内、私は半分にも
満たない程度です。自分の知らなかったことを通信から知り、同時にこれからは
担う方達にも伝えていく手段や機会があればと感じます。作成において、
自治会きさらへのインタビューも行き、有意義な時間を
過ごすことができました。(ひとはつうしん 編集委員長 竹内 宏美)

編集委員：寺尾 順子 / 白井 千子 グラフィックデザイナー：竹原 真二



丸岡 洋二
ひとはは14年目
自治会きさら

誰でもが楽しむ場所へ

私とひとはの出会い、「人間ホールでディスコするけー手伝ってや、女子大生100人来るで。」
でした。当日、昔は女子大生だった方がたくさん来られ、現役女子大生は一人もいませんでしたが、
イベントは大成功で、お客さんも主催者も皆一緒になって楽しんでいました。
私は今、仲間と一緒にひとは庭園を造っています。
庭園内は人間ホールのように、お客さんもスタッフも社会的肩書をとって、一人の人間として
誰でもが楽しむ場所にしたいと思っています。
そして、社会全体がそんな風になって欲しいと願っています。

服部 直美
自治会きさら
ひとはは14年目
自治会きさら

ひとは館の仕事が楽しすぎる。アイス製造や
クッキー作りを続けたい。アニキ(菅田さん)に
注意することがたくさんある。イライラしていたり、
居眠りしていたりする時。



奥田 祐子
ヒューマンソンググループ
ザ・わたしたち代表
ひとはは14年目
自治会きさら

ひとは・人は・一葉

出逢いはまだ小さなタンのような平屋の頃、メンバーの沖元裕子がつないでくれました。
あの日からずっと私たちのポリシーや歌に共感してくださり、人間ホールをはじめ沢山の場所で
歌わせて頂きました。♪ぼくの住む町♪ひとはの仲間♪ひとは♪ひとは♪ひとは♪ひとは♪ひとは♪ひとは♪
沢山の歌も生まれました。練習場所としてお借りすると、必ず仲間が顔を出してくださり、一緒に
共有することで心が豊かになる時間。ひとはに込められた
「人としてどう生きるべきか」「みんな社会を創る大切なひとつの葉」
この志を大切に、これからもみんなの大好きな古里で在り続けてください。

今井 志保子
ひとはは14年目
自治会きさら

私の中にあるひとはの記憶

私とひとはの馴れ初めは、ふれあいハイキングのおむすび作り。
朝早く起きて熱いご飯で握り、2こずつを竹の皮で包む。頂上、
子育て真最中の為、直接参加は難しく、おむすびだけの参加だった。
その事が心残り。

明日のひとはへ

ひとはから歩いて行ける場所に、点在するひとはは長屋があり、
顔なじみのリタイアしたスタッフもいる。小うるさい祖父母という存在。
「うるさいよ」と、仲間につつまれる日々。
自立した生活を送っているけれど、支え合う日常でもある。
その様なコミュニティの核になるひとはであり続けて欲しい。



私の中にあるひとはの記憶

「カッカカ、パチュ」と言いつつ月曜日と火曜日の朝に私の所を必ず訪ねる仲間がいます。
林出さんです。私に「カッカカ」と命名し、ひとはの一員として認めてくれたのかと思います。
50歳でひとはに入ってから13年、これまで不安定に片翼で飛行していた私の人生に翼が生え、
両翼にての飛行になりつつあるのかと感じています。

明日のひとはへ

「彼らの放つ光を感じていけない障がいに侵されていないだろうか」
この一文が時折甦ってきます。時の素早い流れを歓迎する
時代ですが、時には抗いながら、ひとはらしい道を共に歩んで
行きたいと思っています。キーワードは笑顔です。



田中 秀典
ひとはは14年目
自治会きさら